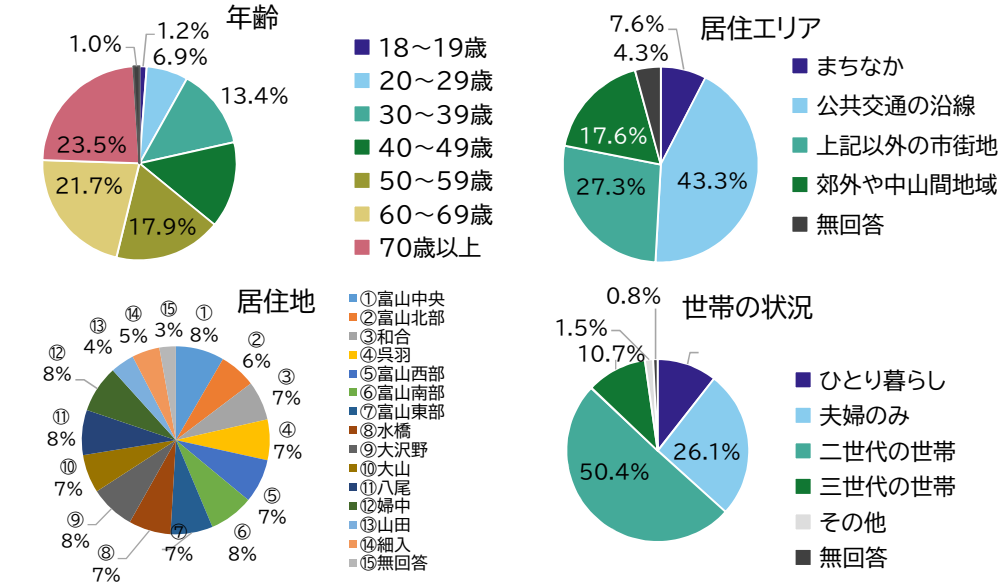


<市民アンケート調査の主な結果>

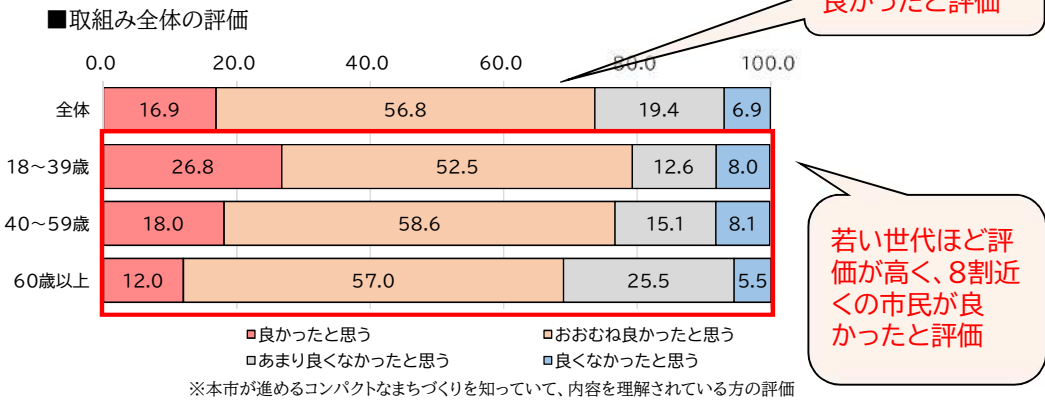
回答数2408人 配布数6000人 回収率40.1%
令和6年1月に実施
抽出方法：地域別で一定程度の回答を得る配布数を整理し、無作為で抽出
集計方法：総数結果は各地域の人口総量に対する重みづけ係数を乗した値で集計、地域別結果は単純集計

① 回答の属性



・多くの年代や地域から幅広く回答を得ることができた
・住まい方としても二世帯での世帯が半数を占めている

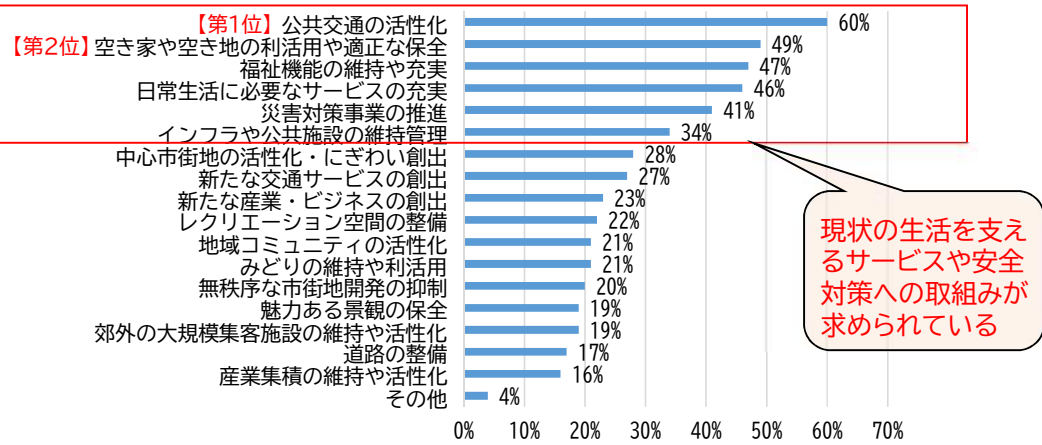
② コンパクトなまちづくりの市民評価



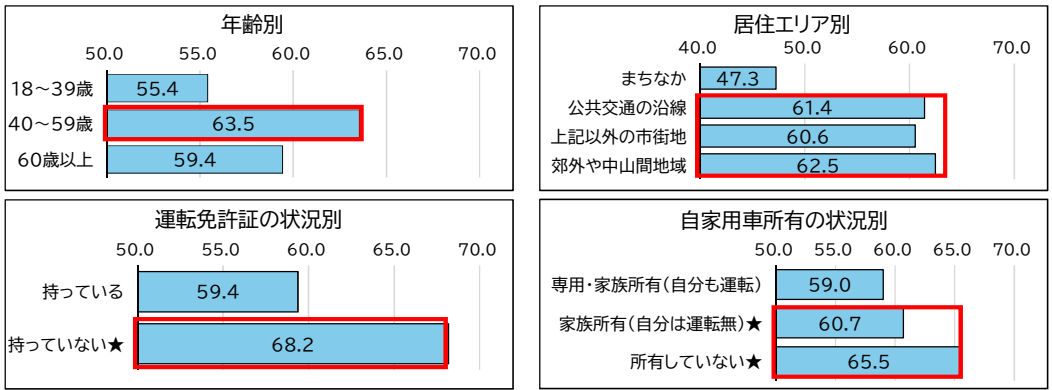
・本市のコンパクトなまちづくりに対する市民の評価は全体で7割が良かったと評価し、若い世代では8割近くが評価していることから、人口減少に対応した次世代につながるまちづくりを進めるため、引き続きコンパクトなまちづくりに取り組むことが必要

③ まちづくりに対する市民の意識

■これからのまちづくりに特に取り組むべきこと

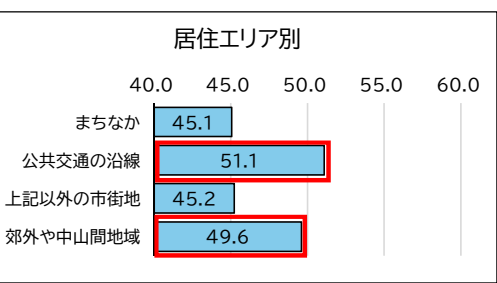


■公共交通の活性化を求める市民



・“40歳以上”“居住エリアがまちなか以外”“運転免許証を持っていない”、“自家用車を持っていない”市民において「そう思う」の割合が高い傾向にあり、現在や将来の移動に対する不安から公共交通の活性化が求められている

■空き家や空き地の適正な保全を求める市民



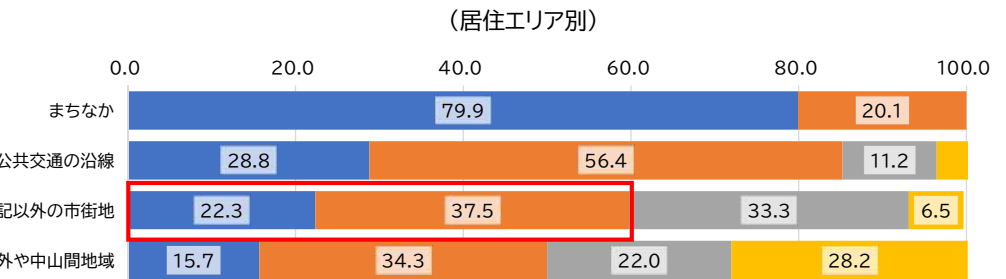
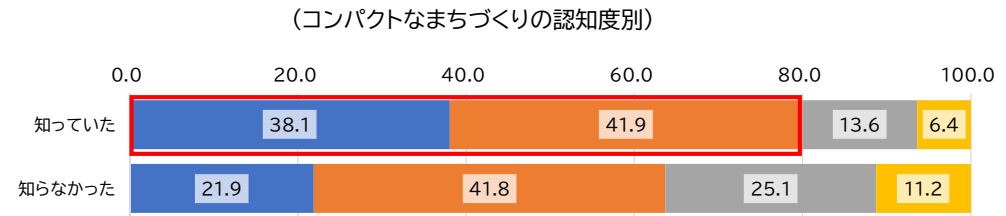
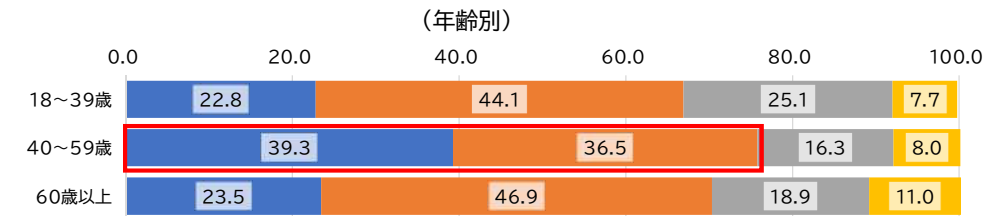
・既存市街地を抱える公共交通の沿線と人口減少が進む郊外や中山間地域といったエリアの市民が、より空き家や空き地の適正な保全を求めている

④ 居住地選択に関する意識の変化

■市内で住み替える場合の居住地選択の意識



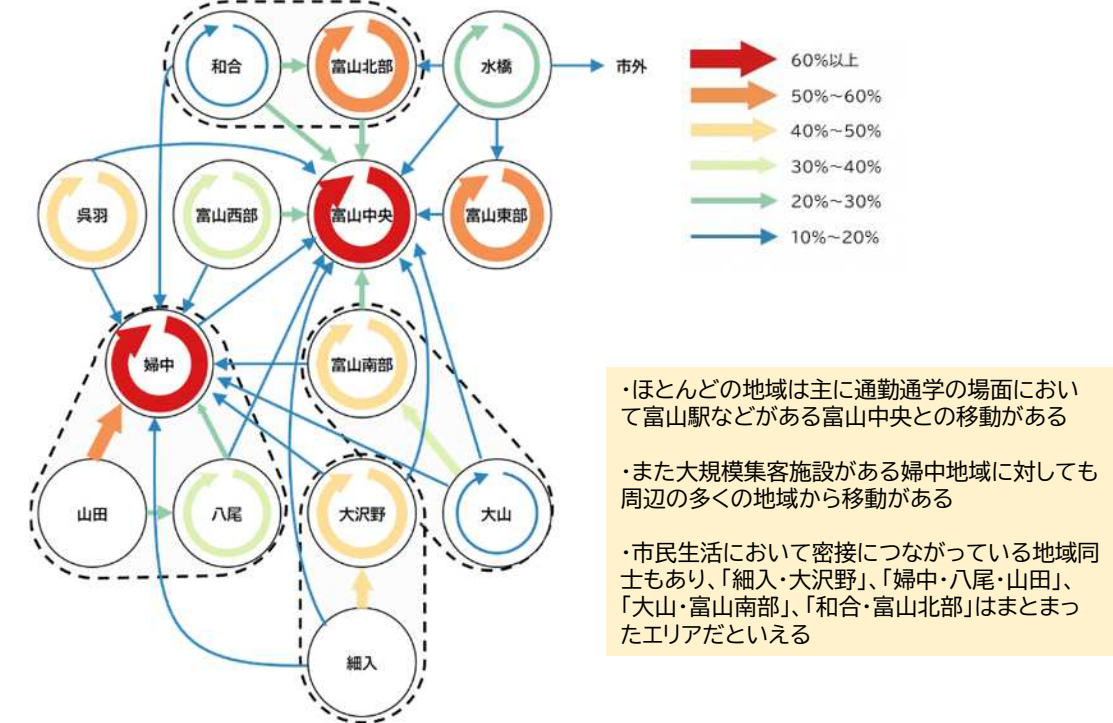
■市内(まちなか) ■市内(公共交通の沿線) ■市内(まちなか・公共交通沿線以外の市街地) ■市内(郊外や中山間地域)



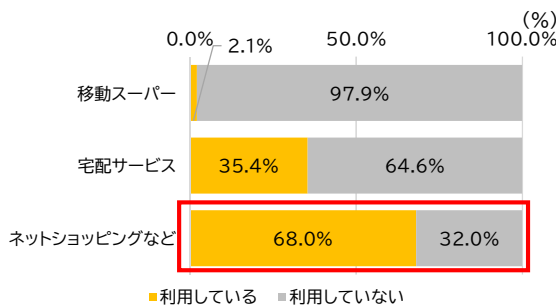
・市内で住み替える場合には7割以上の市民がまちなかや公共交通の沿線を選択する傾向が生まれ、**「コンパクトなまちづくりの内容を知っていた人」**や今後高齢者となっていく**「40～50代」**が多い傾向
・また、現在、既にまちなかや公共交通の沿線に居住する市民は、そのほとんどが住み替える場合には、再びまちなかや公共交通の沿線を選択する意識がある傾向

⑤ 市民の生活行動

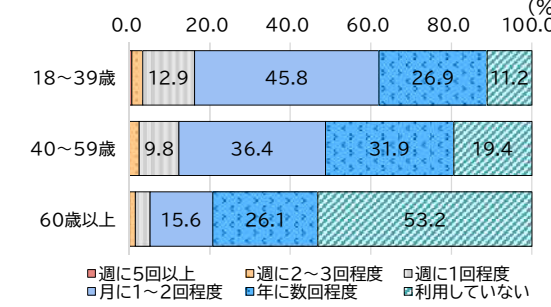
■市民の生活行動の範囲(14地域別)



■実店舗以外の生活サービスの利用状況

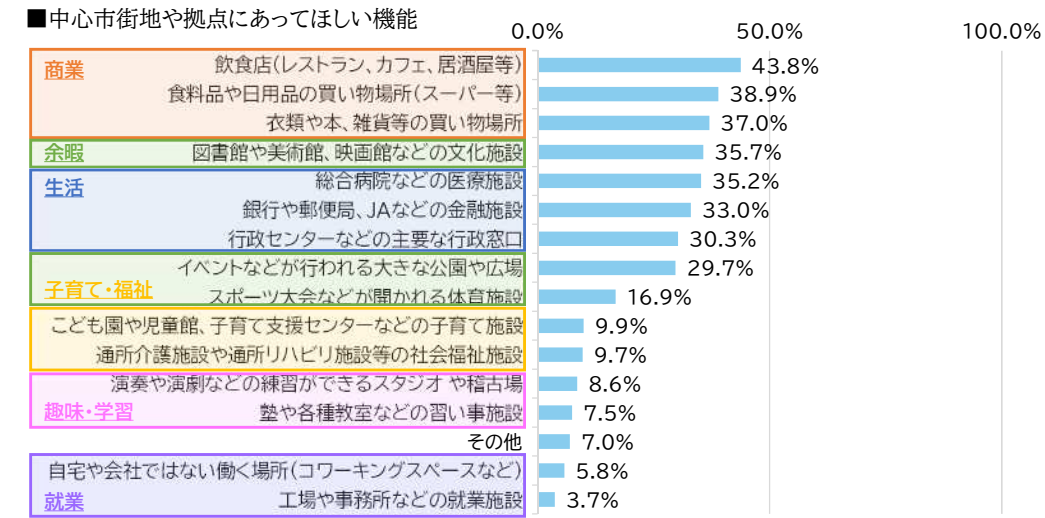
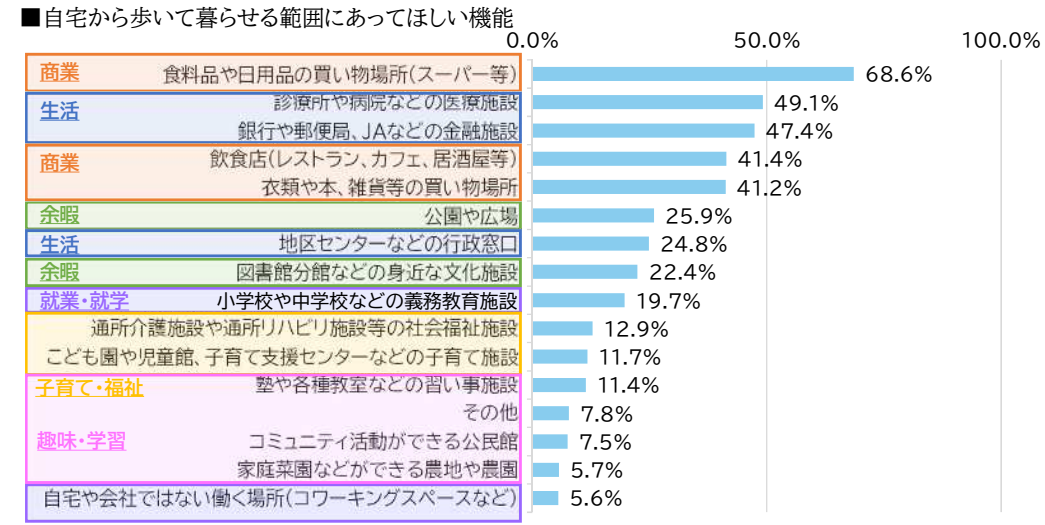


■ネットショッピングの年齢別頻度



・インターネットの普及などにより、実店舗以外のサービスを利用する市民も増え、特にネットショッピングは7割近くの市民が利用しており、若い世代の利用は9割近い
・実店舗と比べ、「価格が安い」「品揃えが良い」「重いものも手軽に購入できる」などの利点があり利用している傾向

⑥ 市民が求める都市の機能



・住まいの周辺にはスーパー等の日常的な買い物場所が最も高く、次いで医療・金融と生活に必要な機能のニーズが高い傾向
・一方、中心市街地などの拠点には商業や余暇、生活、子育てなどの多様な機能のニーズがある
・住まいの周辺と中心市街地や拠点はその求められる役割が異なっている

⑦ コミュニティ活動への参加意識

